

平成 27 年度 第 1 回川俣町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 27 年 8 月 25 日（火） 10：00～11：00

2 場 所 川俣町中央公民館 3 階 第 4 研修室

3 出席者

(構成員)	川俣町長	古川 道郎
	川俣町教育委員会委員長	佐藤 捷善
	同 委員長職務代理者	高橋 裕美子
	同 委員	渡辺 信二
	同 委員	後藤 由美子
	同 教育長	神田 紀

(関係課長等)	川俣町副町長	伊藤 智樹
	同 総務課長	佐藤 広一
	同 教育次長兼こども教育課長	佐藤 修一
	同 生涯学習課長	増賀 喜芳

4 会議の主な内容

○開会 司会：佐藤総務課長

○あいさつ

(1) 古川町長あいさつ

第 1 回総合教育会議に参加いただき感謝する。この会議は、法改正を踏まえ、教育行政に町と教育委員会（以下「教委」）が連携・調整しながら取り組んでいくため、実施するもの。これまでも町と教委は密接に連絡を取り合ってきており、町と教委の考えの乖離はないものと思っているが、これからも連携を密に取り組んでいきたい。

昨今、子どもを取り巻く環境は厳しいものがある。いじめによる自殺、深夜に外出していた子どもを狙った殺人事件等、子どもを持つ親を震撼させた事件があった。教育だけの問題ではないと思うが、教育としてとらえ、子どもを育てる環境づくりにしっかりと取り組んでいきたい。

(2) 神田教育長あいさつ

町長におかれては、教委が進める教育行政について適切な指導・支援・協力をいただき感謝する。昨年 6 月の法改正により、首長が開催する総合教育会議の実施が義務づけられ、今回は第 1 回目の会議となる。主催者は町長であり、今後、町が進める教育行政や、教育全般にわたる方向性について指導をいただき、それを受けて教育委員が具現化を図り、町の教育行政の充実発展に資することが狙いである。

組織の内容、会議の目的等についての共通理解を図りながら、町長の目指す教育

のあり方について、確認していきたい。

○協議事項 進行：古川町長

(1) 総合教育会議について

【佐藤教育次長】（資料 2、3 ページについて説明）

【古川町長】今の説明について、質問等あるか。

【渡辺委員】大都市であれば首長が教委に関与できないという話を聞くが、当町においては町長の考えと教育長・教委の考えは一致している。当町においてはいまままでどおりで十分ではないかと感じた。

【佐藤教育次長】渡辺委員のおっしゃるとおり、当町においては町長部局と教委部局で調整を図りながら、教育行政を進めてきた。滋賀県大津市でのいじめ自殺問題等のように、大都市では首長部局と教委部局が対立するという構造がみられたため、首長の権限を強化するものとして制度改正がなされたところ。

【古川町長】今後も会議での意見については、新たな教育行政の計画の中にしっかりと生かしていきたい。

(2) 総合教育会議運営要綱（案）について

【佐藤総務課長】（資料 4、5 ページについて説明）

【古川町長】運営要綱（案）の内容について意見等あるか。

【教育委員】異議なし。

(3) 教育大綱の策定について

【佐藤教育次長】（資料 6、7 ページについて説明）

【神田教育長】教育大綱については、町長が策定するものと定められているが、文科省の解釈では、町村等においては、「教育振興基本計画」をもって大綱に換えることができるとある。したがって、当町においても同様の取扱いとしたい。

【古川町長】今の説明について、質問等あるか。

【高橋委員】さきほどの渡辺委員の発言のとおり、町と教委は常に連携してきた。提案のとおりで問題ないと思う。

【古川町長】「川俣町教育委員会基本方針」を大綱とすることでよろしいか。

【教育委員】異議なし。

(4) 幼稚園 3 年保育の実施について

【佐藤教育次長】（資料 8 ページについて説明）

【古川町長】私は、今年度から子育て支援を体系的に行っていきたいということを言ってきた。当町では子育て支援係が教委に含まれている。これは画期的なことだと思っていたが、他町村では「子育て支援課」が設置されているところもある。当町でも来年度には「子育て支援課」を設置し、しっかりとした組織で対応していきたいと考えている。3 年保育についても来年度から実施予定。1 園、2 園に限定せず、全園で実施してほしい。子どもが減少し、幼稚園の統合が必要と考えるが、新たな幼稚園の新設も必要だと考えている。福田幼稚園について統廃合が検討されているが、全町的な対応も問われているところ。皆さんの意見を伺いた

い。

【神田教育長】昨日、福田幼稚園長と福田幼稚園 PTA 会長の連名で、福田幼稚園の統合については教委の方針のとおり進めてほしい旨の要望書が提出された。すべての保護者が同意しているため、来年度は福田幼稚園に統合となる。

【古川町長】福田幼稚園は園舎が狭いという意見もある。どこかに新設するにしても土地の確保が難しい。幼稚園の「保育園化」を行い、午前 7 時から午後 7 時までの体制にすれば、入園者も増えるだろうと思う。今後計画の中に取り込んでいき、私の任期中には全体的な計画を仕上げたい。福田幼稚園に限らず、町全体で幼稚園の今後のあり方を議論していきたい。

【神田教育長】町全体での統廃合計画は現在策定中。

【古川町長】幼稚園に入っていない子どもたちが遊びに来たり、先生の話の聞いたりできるような幼稚園の体制づくりをしなければならない。地元ボランティアによる「放課後児童クラブ」は原発事故以来、停滞しているが、見直しを行い、充実を図っていききたい。

【後藤委員】私自身子育てをしていた当時、3 年保育があればいいなと思っていた。3 年保育になることはいいことだと思う。現在、幼稚園には 30 代から 40 代の中間的な年齢の先生がいない。園長先生の下が 20 代の先生という状況だ。保護者へのアドバイスができる中間的な年齢の先生がいればいいと思う。今後、統廃合していく中でそういった先生が増えていくことに期待している。また、小学校の入学時に、幼稚園出身児童と保育園出身児童では差があることを感じた。幼稚園と保育園とで平等な教育を望む。

【古川町長】幼稚園の「保育園化」あるいは保育園の「幼稚園化」で、格差が生じないように取り組んでいきたい。

【高橋委員】町長はライフワークとして教育に力を入れているが、教育の道筋をきちんと町民に知らせてほしい。将来が見える形で示していけば、壁も乗り越えて行ける。当初からの教育に対するモチベーションを継続していったほしい。

【渡辺委員】幼稚園の統廃合については、地域や保護者が納得しなければうまくいかない。建物の問題、保育園の問題、「放課後児童クラブ」の問題等、町長の考えを自信を持って教委に示していただきたい。

【古川町長】福田地区では十二社地内に団地ができ、住民が増えたことから、園児も増えると期待したが、そうはならなかった。園児の減少による統合もあれば、教委の方針としての統合もある。皆さんの意見を取り入れ、方針を決めていきたい。

【佐藤委員長】「大人が変われば子どもも変わる」という青少年教育の標語もあるが、深夜に子どもを遊ばせるのは親の責任だ。当町では PTA も協力的だし、地域住民も協力的だが、目の届かないところもある。今後、そういったところについて、地域全体としての協力を求めていく方法を考えていかなければならないと思う。

【古川町長】現在、教委では山木屋地区の小中連携について、緊急課題として取り組んでいる。山木屋の学校を廃止する考えはない。避難解除が行われた後、子どもたちの動向を見てからでも遅くないだろうということは教育長と打合せして

いる。学校の除染は終わっており、いつでも戻れる環境だ。隣接する山林の除染も済んでいる。避難前は山木屋の小中一貫教育を議論したこともあり、PTA はほぼ合意していた。今後、将来に向かってのあり方を研究することは大切。基本計画にも反映できればと思っている。

(5) その他

【古川町長】 その他、何か意見等あるか？

【佐藤総務課長】 大阪府寝屋川市の事件の容疑者が町内で除染作業に従事していたことについて、除染作業員の管理徹底を図るよう、環境再生事務所へ抗議文を出していることを報告する。

【神田教育長】 次回の総合教育会議だが、教委としては年 2 回、8 月と 2 月の開催を考えている。2 月の会議では、今回示された町長の考えがどの程度具現化されたかを報告したい。

○閉会 司会：佐藤総務課長